

今日のみことば

□ 5月20日(日) 列王記上 21章

アハブ王の妻イゼベルは、アハブ王の願いを聞き、ナボデのブドウ畑を取得をするために彼を殺害した。エリヤによりその悪事は明らかなものとされた。

□ 5月21日(月) 列王記上 22章

イスラエルとユダは一時的に同盟を結び、アラムと戦いました。ミカヤの正しい預言を聞くように勧められたが、その警告は無視され、アハブはシリヤとの戦いで死にました。

□ 5月22日(火) 列王記下 1章

アハブ王が死んでアハズヤが王になった。しかし彼もまた生ける神に従おうとはしなかった。王の権力さえ、神のみ前には全く無力に等しい。預言者が語ったとおりに死んだ。

□ 5月23日(水) 列王記下 2章

預言者エリヤはエリシャを後継者とした。エリヤは最後は一人だと願ったが、いつもエリシャが一緒でした。神はエリヤhs彼らが見ている前で天に引き上げられた。

□ 5月24日(木) 列王記下 3章

ヨラムはイスラエルを12間治めた。エリシャの助言で国は守られたが、偶像を信じる人たちのためにははたらかなかった。神の子に対して、神の恵みは豊かであった。

□ 5月25日(金) 列王記下 4章

エリシャの奇蹟は、主の奇蹟のように一般の人々やその人たちの必要に対する神の配慮が示されている。子どもがいないシュケムの女ともてなしに対する心遣いのそれを知る。

□ 5月26日(土) 列王記下 5章

神の関心は、イスラエルの人々に限定されなかった。アラム軍のナアマン将軍の癒しに、イスラエルの少女を通して、神の憐れみと、信仰の出来事を起こされた。

ろ ぼ No. 1868
2018年 5月20日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

エフェソ1:13

あなたがたもまた、キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞きそして信じて、約束された聖霊の証印を押されたのです。

キリスト教会には、真理を告げる様々な三点セットがあります。私たちの信仰の土台となるキリストにある「祭り」も、私は大事なものとして伝えさせていただいてきました。「降誕祭」「復活祭」「聖霊降臨祭」です。神さまが私たちに与えて下さった愛と慈しみをしっかりと受け止めていただく出来事です。

今日は「聖霊降臨祭」です。俗に私たちはキリスト教会の誕生日だ、などと言っていますが、その思いは私たちにとって大変重要なことを伝えてくれるのです。この日の出来事を通して、キリストにある救いをしっかりと受け止めて大勢の人たちが信仰告白をして、信徒の群れに加えられたからです。あなたがイエス・キリストをあなた

の救い主と信じて告白し、救いの喜びを証しするようにされたのは、ほかならずこの聖霊であることを、私は信じています

あなたは聖霊を信じますか。そんな質問は愚かでしょうね。信じているからこそ今ここにいるのですから。ニコデモがイエスから「新しく生まれなければ神の国を見ることはできない」と言われて、「年をとってから生まれることが、どうしてできますか」(ヨハ3:3-4)というとき、イエスは「だれでも、水と霊とから生まれなければ、神の国に入ることはできない」(ヨハ3:6)と言われました。イエスは言われたのです。私たちは新しく生まれる、新生の経験がなければ、神さまからの大いなる祝福を

いただくことはできない、ということです。私たちがその罪を告白し、すべてを主イエスさまにおゆだねし、清められるとき私たちは聖霊に満たされます。

マイヤー牧師が「聖霊に満たされる方法」という講演をして帰ろうとしたとき、聖霊に満たされたいと祈禱室で祈っていた婦人宣教師がマイヤー牧師を引き留めて、「先生が言われるように、祈りの中で罪を告白し、聖霊の満たしを祈りましたが、聖霊に満たされたという感じがしないのですが」と言ってきました。「あなたとイエスさまとの親密さはどうでしたか」「それはすばらしいものでした。今日は私にとって今までにない最高の主との交わりでした。それに今はとてもイエスさまを愛しています」「それこそ聖霊の満たしですよ。聖霊は自己主張をするのではなく、クリスチャンにイエスさまを深く認識させるのです」と答えました。

私たちは「聖霊降臨祭」のこの日に起こった出来事（使徒2:1-42）をしっかりと思い起こさせていただかねばなりません。そのとき聖霊が何をそこに起こしたか、そしてどのような祝福の喜びがそこに起こったかを確認させていただくのです。そこに本当のキリスト教会が存在します。今日までどれほど多くのクリスチャンがこの喜びを伝えてきたか、如実に聖霊の働きを語っているのではありませんか。

このようにしてキリスト教会は起こりました。私たちはその証人です。私はキリスト教会の三大祭りを、しっかりと語り伝えさせていただきたい。そこでいただく喜びを、みんなで受け取らせていただきたいと願っています。天地万物の創造者なる神さまは、私たちをこよなく愛しておられるお方です。すべてをゆだねて従うものに、失望をお与えにはなりません。

————— 《 聖書の学び・祈禱会 》 —————

コリントー 15:50-58 復活の希望にしっかり立つ

パウロが語った福音の核心、それは聖書に書いてある通り私たちの罪のために十字架で死なれたこと、またよみがえったことである。キリストの十字架上の死と復活です。キリストの復活を疑うすべての論議を後にして、パウロは栄光ある事実をそれに伴ういくつかの論を進めてゆきます。

未信者が死んだとき、ほかの人が変わってバプテスマを受けるといふ不思議な風習がありました。パウロはそれを否定していました。この世のいのちはすべてではない。キリストにある来るべきいのちがある以上、キリストにあるあらゆる危険を犯すこと、いのちを捨てること、また悪い友だちや罪の誘惑から離れることにも大きな意味があります。

「死は勝利に飲み込まれた。死よ、お前の勝利はどこにあるのか。死よおまえのとげはどこにあるのか」私sたちの主イエス・キリストによって勝利を賜った神に感謝しよう。



Read God's Word.

次週の聖書・説教

黙示録1:12-18

勝利のことば